



2022年
5月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者
司祭 瀬山 会治
印刷所
文明堂印刷所

始原生殖細胞

司祭 セバスチャン 浪花 朋久

人間が受精後、最初に作り出す細胞の名前を「始原生殖細胞」と言います。この細胞は、精子と卵子になっていくことから、人間は遺伝子レベルで、生まれてすぐに次の世代へのバトンタッチを意識していることが分かります。そのバトンタッチは、人類が誕生した約二千万年前から現在まで受け継がれているのです。

近年「次世代へのバトンタッチ」やそれに似た言葉をよく耳にします。親族で経営する事業は、一族に後継者がいなければ第三者が事業を継承することを余儀なくされます。そのため「第三者継承」



ケンブリッジ駅のホーム

が近年増えてきているとも言われています。伝えるのは一族の血筋ではなく、事業内容と技術であり、誰が守っていくのかは問題ではなく、何をどの様に守っていくかが大切

なのです。

ある教会の最後

10年前、イギリスのケンブリッジを訪問した際、教会の様な建物を見学しました。屋内には大きな礼拝堂の様なホールや洗礼盤の様なものがあることから、ここが教会にしか見えないと思えました。ガイドにそのことを伝えると、ここはもともと教会であり、

信徒減少のため、近隣の教会と合併し、建物は公民館にして地域の方々に利用されることを知りました。信仰は別の場所で継承され、「教会」という建物は別の用途で使われていることに少し驚きましたが、それが地域の方々のためになっているのなら、それが神様の御心なのだとも感じました。

最初に伝えられたもの

最初のキリスト者である主イエスの弟子たちは、主イエスと出会えたこと、特に復活の主イエスと出会えたことで、死に打ち克てる生き方と、苦しみを共感してくださる救い主を知り、感動を覚えました。そして、その感動を世界中に伝えました。それは彼らの力だけではなく、神様が使徒たちに聖霊を降し、全世界にその感動を宣べ伝える

ようにされたからです。そして主イエスと神様が使徒たちに命じられたのは、自分たちのお気に入りの建物や習慣を後世に伝えることではなく、神様と出会えた感動を出会った人々に伝えることでした。

最後に残るもの

キリスト者やキリスト教に理解がある方々は初めてキリスト教に触れた時、礼拝に出席した時、牧師をはじめキリスト者と出会った時、そして生まれた瞬間からキリスト者の親の愛を無意識に受けた時、それら何らかの感動を経験したからこそ、今も人生の中に教会があるはず。キリスト者や、キリスト教に理解がある方にとってのもう一つの始原生殖細胞は、キリストと出会えた「感動」です。だから、人生で得た感動をあなただけのものにしないうでください。家族や友人以外の誰かに、あなたの感動を伝えていきましよう。そうすれば、あなたの教会や大切な場所は公民館にならなくて済むかもしれません。

(立教大学チャプレン)

— 東日本大震災11周年記念 —
**「視点を变えて
 見られるか見られないか」**

島第一原発から15キロほどにある原発事故避難指示地域であった福島県南相馬市小高地区に戻り、マイナスからの地域作りをしている。



東日本大震災11周年記念の祈り・講演が3月11日に東北教区主教座聖堂で行われた。礼拝後は「課題をチャンスと捉える、百の課題から百のビジネスを創り出す」をキーワードとして、和田智行氏の講演が行われた。和田氏は、福

スタートは、「フロンティア」だと和田氏は言われる。既存の社会はすでに成熟し、そのうえでかつてのような安定社会が望めなくなっている。不安や不満だけ変えられない変わらない社会のなかで、小高地区は既存の価値観にとらわれない自分たちが暮らしたい社会、持続可能な地域に生まれ変わるチャンスなのだと

震災の6年後に避難指示地域が解除され、小高で生活が出来るようになったものの、様々な事情で帰還する人が少なかった。その中であって小高地区出身の和田氏が「百の課題から百のビジネスを創り出す」という思いのもとワークスペースをつくり町の再生に取り組んでいる。具体的内容は、Youtubeでご覧下さい。

避難指示地域だったために住民が0になり、そこからの

先行きの見えない世界を生きている今の若者たちにとって安定的な生活というのは存在しない、この予測不能な未来を楽しむ、不安よりも限らない可能性を楽しむ、未来の可能性は今に引っぱり出してこようというのがキーワードになっている。すべてを失った小高地区をフロンティアと見立て、震災前に戻っても意味がない、新しいチャンスの中で生きていくことにやりがいを感じているという。そして決して多くない人

出来た。地域の人・働く人・住む人が集い交流することの出来るワークスペースをつくり、キッチンやホールで自由で様々な活動が行われる。そこでは仕事と遊びと学びを区別せずに曖昧にしておくことでアイデアが出てくると言う。

自立した地域社会を実現するというところで、千人を雇用する一つの事業ではなく、十人を雇用する百の多様な事業を作ろうと。ただ雇われてい

たちが小高地区に戻り、また新しく移住してきて、新しい小高地区が再生されていく様子が報告された。

吉田雅人主教がお礼の挨拶のなかで「(教会の)現状分析をすると暗い点しか見えな

る」が課題として残ると話された。教会に横たわる課題をチャンスとして見ることが出来るのか出来ないのか、戻るのはではなく新しいチャンスとして歩めるのか、震災を通して私たちの視点が問われる素晴らしい講演だった。

（社会部・防災担当）宮田裕三

東日本大震災11周年記念の祈り



Youtube QRコード

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

『幼稚園舎祝福式』

3月27日(日)主日礼拝に引き続き、姫路顕栄学園聖ミカエル広畑幼稚園の新園舎祝福式をチャプレンの小南晃司祭と共に、行うことができました。

昨年9月18日(土)、台風の影響の残る中、起工式を行い、約半年が経ちました。私も毎朝のお祈りの時に、今回の建築のために半年間、祈らせていただきました。この学園の顧問というお役を頂いていて、今回の祝福式をさせていただきました。小南先生のていねいな段取りに従って、すべての部屋、屋上まで祝福して回りました。

この後、旧園舎、ホールなどの取り壊しの後、秋には工事の全体を終え、お披

露目となるそうです。ゆったりとした広いお部屋の中で、子どもたちの楽しい笑い声が聞こえてきそうです。

『聖別解除式』

3月28日(月)神戸マリナーズ・センターの聖別解除式をポール・トルハースト司祭、横浜MTSのアンドリユー・デンジャーフィールド司祭と共に行いました。このセンターは、1987年5月にロバート・ラッシー・カンタベリー大主教によって起工式が行われ、同年11月8代欽一主教によって聖別式が行われたものです。海員さん達のリラックス、礼拝、交わりのために用いられてきました。最近の船員さん達の必要に答えるため、現在の建物を壊し、2024年に向け、建物を少し小さくして再建することになりました。この間の主日礼拝は、聖ミカエル国際学校で行います。この建築のためにもお祈りください。

(神戸教区主教)

暗闇 行く時には

ルツ 原田 里香子
(大阪聖パウロ教会)

コロナ禍での教会生活

神戸教区を離れたのはコロナウィルスの感染報道が出始めた2年前の2月でした。現在私が在籍する大阪聖パウロ教会も、一昨年からは、感染拡大により公開礼拝の中止が重なりました。大阪教区・磯主教のメッセージが度々出され、「明日何があるかわからない」というこの世の現実を改めて認識し、教会生活は一変しました。

教区関連の礼拝は中止、もしくは人数制限下で行われ、会議はオンラインを併用しながら行われています。教区ホームページでは「主日の祈りと聖書、そしてメッセージ」が毎週YouTube配信されています。

昨年秋季以降、聖パウロ教会の主日礼拝は歌唱を控えつつ行っていますが、茶話会、集会はほとんど中止のままです。奉仕の多くを女性信徒が担っていますが、年配の方も



多く、教会独自のオンライン礼拝や会議はままなりません。

気づかれない教会

聖パウロ教会はその立地環境ゆえ、他にはない形態の教会です。JR大阪駅から徒歩10分、阪急大阪梅田駅から5分、有名な大規模店が並ぶ繁華街の通りから脇道に入った所にあり、周囲は飲食店、カラオケ店などの商業施設が密集しています。40年前、英語学校を併設して現在の地に移転したようですが、当時何もなかった周辺は年月と共に激変しました。若い人の往来はありますが、古い5階建ビルだからか、教会とは気づかれにくい状況です。屋上の十字架も高層ビルに囲まれ目立ちません。1階はキリスト教書店が店を構えており、2階が礼拝堂、現在英語学校はなく3階以上は諸団体が入居しています。教会は信徒の高齢化

に加え、コンクリート建物の老築化問題も抱えています。

にもかわからず…

建物の入居団体の一つに日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の事務所があります。その関係で緩和ケアの第一人者、淀川キリスト教病院の柏木哲夫先生が出演され、昨年NHKの番組「こころの時代」の撮影が礼拝堂で行われました。先生は「死期が近づく病を抱える方は心身に苦しい状況が重なる。『にもかわからず』ユーモアや笑いの心が大切で必要。」とお話されました。

近年、京都教区と大阪教区は合併を目指して話し合いを重ね、教区報を合同で出すなど様々な試みもありましたが、最終的に合併は否決されました。山積する問題に明るい未来は感じにくい状況です。にもかかわらず、み心を信じて希望を持ち、知恵を出し合いながら、日々誠実に生きることを一層必要な時では、と思う日々です。この春、教会の一人の女性信徒が教区神学生となられました。一筋の光のように思えます。

二〇二〇年神戸教区人事により、大阪教区へ出向中の原田佳城司祭に伴い、大阪教区へ転籍

鳩だより

《敬称略》

洗礼

3月20日(日)
エラスムス 平井 敬一
松山聖アンデレ教会

4月5日(火)
マルタ 近森 みほ
高知聖パウロ教会

洗礼・堅信

4月3日(日)
ボアズ 田中 穂積
広島復活教会

教籍異動

3月31日(木)
セシリア 藤井 左織
アグネス 藤井 満栄
ラファエル 藤井 漱之介
アンジェリーナ 藤井 まりん
広島復活教会から
松山聖アンデレ教会へ

4月1日(金)
ペトロ 松下 晃
北関東教区
大宮聖愛教会から
高知聖パウロ教会へ

ご逝去

3月11日(金)
パウロ 永田 光夫
広島復活教会

3月11日(金)
ハンナ 石倉 宣江
米子聖ニコラス教会

3月18日(金)
パトリック 小合 洋一
岡山聖オーガスチン教会

3月25日(金)
クララ 松野 洋子
徳山聖マリア教会

4月5日(火)
マルタ 近森 みほ
高知聖パウロ教会

5月8日
神学校のための主日
ウイリアムス神学院・聖公会
神学院のために祈り、
信施を献げましょう。

6月5日
**地球環境のために
祈る主日**
地球環境のために
祈りましょう。

6月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2022年6月2日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 司祭 柳本 博人
説教 司祭 未定

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、
ご出席される方は、事前に教区事務所まで
お問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

* 6月の記念逝去教役者

8日	司祭	チャールズ	ワレン
13日	司祭	ダニエル	植村 信久
13日	司祭	ヘンリー	ピート
13日	伝道師	マリア	鈴木 嵯峨
19日	伝道師	ヨハネ	伊木 久次郎
19日	司祭	ダビデ	横田 豊
20日	司祭		牧岡 鉄弥
20日	司祭	トマス	角瀬 史和
20日	主教	テトス	中道 淑夫
21日	司祭	ミカエル	津留 孝夫
22日	司祭	施洗者ヨハネ	佐々木 崇
23日	司祭	マタイ	覚前 信三
29日	主教		横田 道信

特定非営利 活動法人 聖公会生野センター 30周年事業募金のお願い

聖公会生野センターは2022年に設立30周年を迎えます。同センターは社会の狭間で生きる人々と「共に生きる心」を大切にし、歩んで来ました。設立30周年を記念するために聖公会生野センター設立30周年記念事業実行委員会が設置されたと同時にこれからの新しい歩みのための募金のために聖公会生野センター30周年記念事業募金委員会が設置され、日本聖公会各教区・教会に募金のお願いが行われております。これからの同センターの働きを覚え、お支えして頂けましたら幸いです。

■募金目標額 600万円

■募金の目的

- *新事業の生活介護事業立ち上げ
- *30周年記念事業(記念誌発行)
- *連続セミナー
- *のりばんレシピ発行など
- *センター活動支援

■募金期間 2022年1月~2023年3月

■【郵便振替口座】

*口座番号: 00960-0-133429

*口座名義: 聖公会生野センター後援会